

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏失業率(2023年7月) —失業率・若年失業率ともに横ばい推移

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

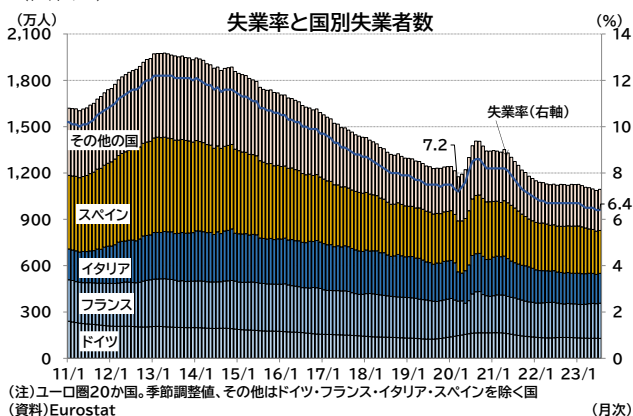
1. 結果の概要:失業率は6.4%で横ばい

8月31日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏の失業率を公表し、結果は以下の通りとなった。

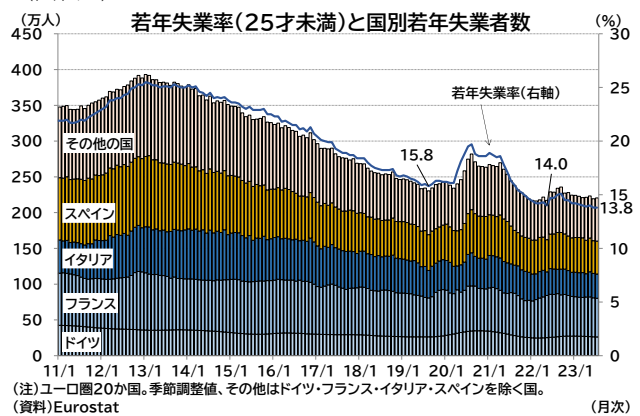
【ユーロ圏失業率(20か国、2023年7月、季節調整値)】

- ・失業率は6.4%、市場予想¹(6.4%)と一致し、前月(6.4%)から横ばいだった(図表1)
- ・失業者は1094.4万人となり、前月(1087.1万人)から7.3万人増加した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:若年失業率も最低値で横ばい

ユーロ圏(20か国)の7月の失業率は6.4%で、6月(6.4%)から横ばい、統計データ公表以来の最低値での推移となった。なお、過去データは4月および5月の数値がやや悪化方向に修正された(5月改定前6.4%→改定後6.5%、4月6.4%→6.5%)。

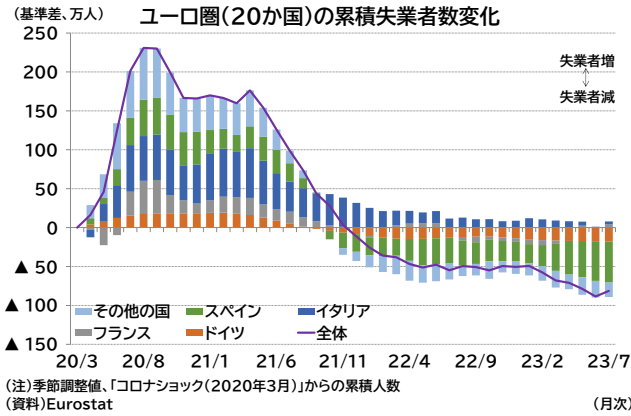
失業者数は7月の前月差で7.3万人増となり、23年1月以来となる前月比プラスとなった(図表3・4)。主要4か国では、スペイン(▲1.6万人)とドイツ(▲0.5万人)では失業者が減少、フランス(+3.0万人)とイタリア(+3.7万人)では増加した。ただし、スペインやドイツの減少幅が限定的となる一方、フランスやイタリアの増加幅はやや大きかった。

7月の若年失業率は13.8%で、こちらも6月(13.8%)から横ばいであり、コロナ禍後の最低値で推移している(図表2)。なお若年失業率の過去データはほぼ修正されなかった。

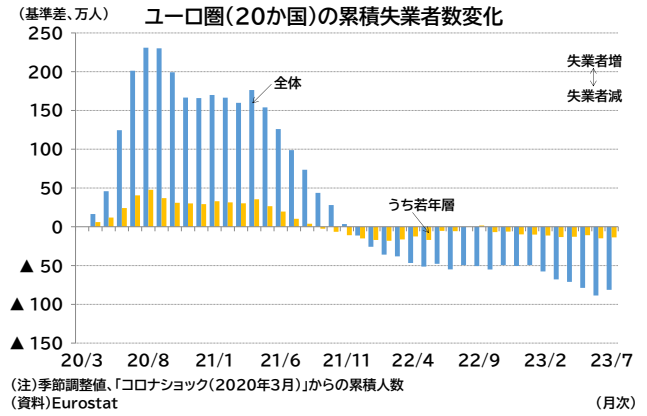
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

若年失業者数は6月で220.6万人（前月差+1.2万人）となり、6月（前月差▲3.9万人）から増加した。若年失業者数はコロナ禍後の最低値（216.1万人、22年2月）を上回る状況ではあるが、コロナショック直前の水準は下回っている（図表4）。

(図表3)

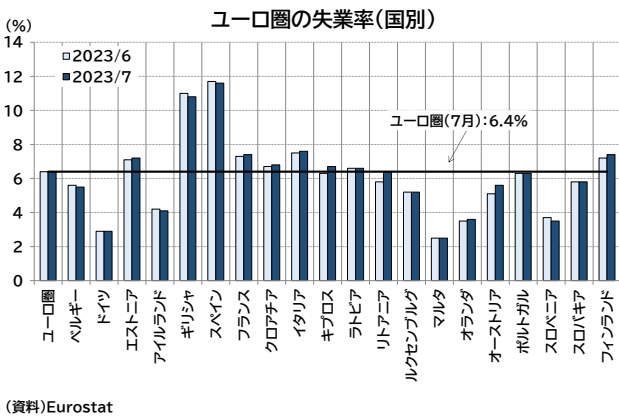


(図表4)

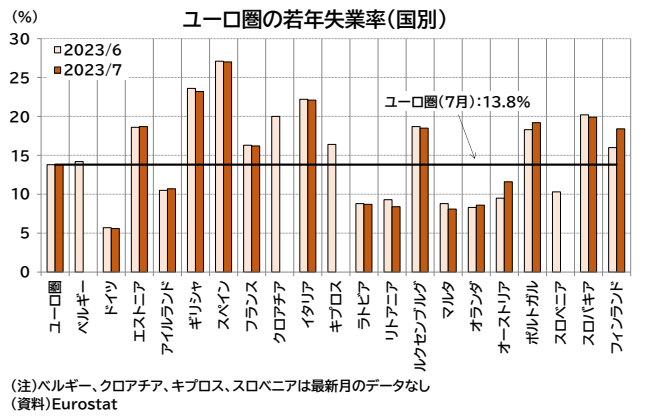


国別の7月のデータを見ると、失業率はデータが公表されている20か国中、悪化した国が9か国、改善が5か国、横ばいが6か国だった（図表5）。また、若年失業率は公表されている16か国中、悪化した国が6か国、改善が10か国だった（図表6）。

(図表5)

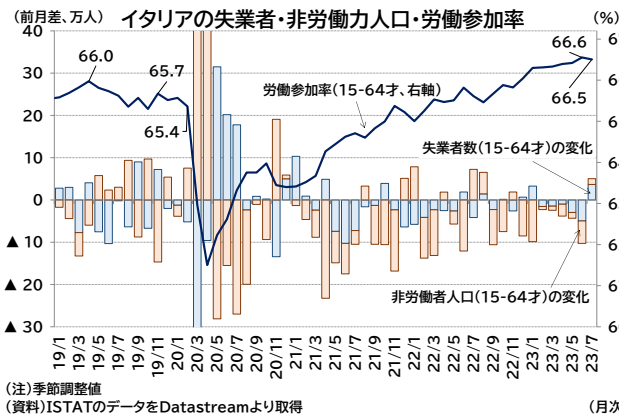


(図表6)

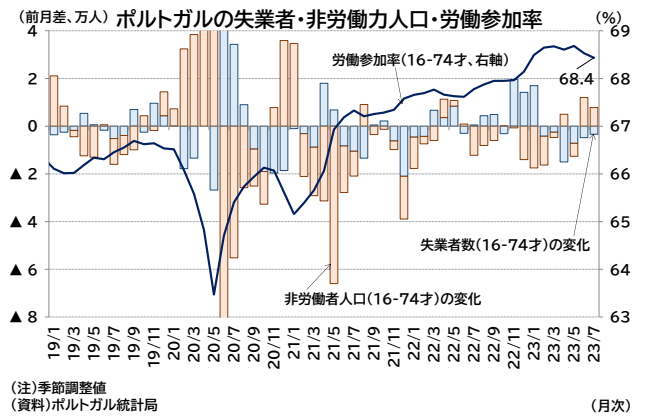


最後に詳細な月次データを公表しているイタリアとポルトガルについて確認すると、イタリアは失業者と非労働力人口が増加、就業者が減少した。その結果、労働参加率はやや低下した（図表7）。ポルトガルは失業者が減少したものの、非労働人口がそれ以上に増加したため就業者は減少した。労働参加率はコロナ禍後のピークを付けた23年5月から2か月連続で低下している（図表8）。

(図表7)



(図表8)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。